

2026 年度 公立大学法人大阪 第4回役員会議事要旨

日 時：2026年7月29日（水）9時30分～11時15分

場 所：UR 森之宮ビル3階 役員会議室

構成員：福島理事長、櫻木副理事長、松井理事、丸尾理事、高橋理事、徳永理事、重松理事、
中村理事、宮部理事(オンライン)、帯野理事、藤本理事、藤沢理事(オンライン)

監 事：白井監事、前田監事

陪席者：露口本部事務機構長、石井本部事務機構次長、大久保本部事務機構次長、富宅阿倍野キャンパス事務局長、石田総務総括部長、柴山企画総括部長、片山総務部長、遠藤人事戦略部長、吉岡財務部長、皆藤企画部長、肥田大学戦略室長、寺田阿倍野キャンパス事務局事務部長、中井産学官民共創推進室長、酒井経営統括アドバイザー

【報告事項】

1 2025年度監事監査報告（財務諸表等）および2026年度監事監査計画について

白井監事および前田監事より、2025年度監事監査報告（財務諸表等）および2026年度監事監査計画について説明がなされた。

<主な意見等>

- ・研究費の不正使用等については、現場の認識不足が要因となる場合もあることから、現場の監査体制とも連携しながら確認することが重要である。
- ・公立大学として組織改革を進める中で、目指す方向性が教職員に十分浸透しているかなど、ガバナンスの観点からのフィードバックも期待したい。

2 2025年度内部監査報告および2026年度内部監査計画について

井原監査室長より、2025年度内部監査報告および2026年度内部監査計画について説明がなされた。

<主な意見等>

特になし。

3 医学部附属病院長候補者選考について

中村理事および阿倍野キャンパス事務局事務部長より、現医学部附属病院長の今年度末の任期満了に伴い、次期病院長候補者の選考プロセスを開始する旨が報告された。

<主な意見等>

特になし。

4 組織利益相反マネジメント体制の方針について(案)

松井理事および井野研究推進部長より、組織利益相反マネジメント体制の方針について説明がなされた。

<主な意見等>

- ・「OMU組織COIマネジメント委員会」については、例えば外部有識者が過半数を占める組織構成にすることが望ましいのではないか。また、「利益相反マネジメント委員会」についても、外部有識者が客観的に確認・評価できる体制への見直しを検討すべきではないか。

→外部委員の取り扱いを適切に検討し、透明性の高い審査体制の構築を検討する。

- ・「現行でカバーしていない範囲」として「随意契約」が挙げられているが、これはすべての随意契約を対象とするのか。また、自己点検を手法とする場合、網羅的な把握は難しいのではないか。

→随意契約の適切性審査については従来通り原課で行うが、今後は「利益相反のリスクがある企業か」という観点からもマネジメントを強化する。具体的には、教員が関与する企業等の台帳を確認し、リスク判定を行うこととする。

- ・意図的な利益相反行為の共有だけでなく、認識や理解不足に起因する事案も発生も想定されることから、全教職員が本制度の内容を十分理解できるよう周知を徹底いただきたい。

- ・本制度は外国人研究者も対象であるか。また、日本語要件を設ける必要はないのか。

→現状は日本語による運用となっているが、今後、外国人研究者の受入れを積極的に進めるにあたり、外国人研究者への周知や言語面を含めた環境整備について検討する。

- ・技術流出や安全保障技術管理の観点からも、海外企業との関わりについて課題があるが、リスクが巧妙化・複雑化しているため、関係省庁と連携しながら継続的にルールを見直し、リスク低減を図るべきである。

- ・自己申告がない場合の罰則等についても、実効性を確保する観点から検討が必要ではないか。

→他大学の事例も参考に、実効性のある制度を検討する。

5 2026年度の研究費の不正防止計画の改定について

櫻木副理事長より、2026年度の研究費の不正防止計画の改定について説明がなされた。

<主な意見等>

- ・デジタルやAIを積極的に活用し、バックグラウンドチェックや支払い先情報の照合等を強化するなど、不正防止対策の充実を図っていただきたい。

6 2025年度外部資金獲得実績について

徳永理事より、2025年度外部資金獲得実績について説明がなされた。

<主な意見等>

- ・AIの普及に伴い、企業には倫理や法制度の見直しが求められている。理系だけでなく文系の教員も企業との共同研究に積極的に関われる仕組みを作してほしい。
- 文系教員への周知を徹底するとともに、大学のプロジェクトに関与しやすくなる仕組みや、人文系の視点（ELSI・倫理・社会へのインパクト等）を取り入れる取り組みを検討する。
- ・外部資金獲得のための支援組織や施策について、手法別の効果検証を継続的に行い、強化・見直しすべき点を見極めてはどうか。
- 現在、科研費獲得セミナーによる若手支援とともに、大型プロジェクトの助成金獲得に向けた支援体制を整備し、URAや副学長を中心にサポートを行っている。また、今年度より導入した、外部資金獲得者および組織へのインセンティブ報酬制度を通じ、外部資金獲得のモチベーション向上を図っていく。

7 2026年度入試結果について

高橋理事より、2026年度入試結果について説明がなされた。

<主な意見等>

- ・中期日程は偏差値の高い優秀な学生が集まる一方、他大学へ流出する合格者も多いことから、中期日程制度を継続すべきか議論が必要ではないか。
- 中期日程は公立大特有の生命線である制度でもあり、現時点では維持する方針のため、入学した学生の教育を通じて、いかに本学への定着につなげるかに注力したい。

8 2025年進路・就職状況、国家資格の合格率について

高橋理事より、2025年進路・就職状況、国家資格の合格率について説明がなされた。

<主な意見等>

特になし。

【備考】 オンライン会議システムを併用した役員会は、適時的確な意見表明が互いにできる状態であることを 確認しており、終始異状なく議題の審議等を終了した。

以 上